と、わかりました。

しらひげの洪水があった数日後、朝早く、それもまだうす暗い時分から、この杉の木の上で、からすが、ガアガアと鳴いていました。

村の人々は、あまりにからすが、鳴き騒ぐので、気味悪く、話し合っていました。

「なんだって、からす鳴ぐごと。」

「したがナス。きょうの鳴きかたは。ちょっと違うみたいだ、オラ。」

「からす鳴きが悪いと、人が死ぬというていんだゲンジョ、誰か、また死んだのがマ。」

「この前の大水のとき、だいぶ人も流されて死んだっていうから、それで鳴いているんだべかナス。」

「それにしては、きょうのからすの鳴き方は、妙だから。」

「見てみっせ。あの七兵衛屋敷(しちべえやしき)の杉の木の上。普段とからすのようすも違うから。」

「杉の木の下に何かいるではねえかよ?」